

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成31年3月27日

九州運輸局

評価対象事業名: 確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・ 効果達 成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
福岡県宗像市離島航路確保維持協議会	宗像市	地島～神湊	観光担当部署と連携し、神湊港ターミナルに地島の観光案内チラシやポスターを設置し、釣り客以外の一般の観光客の増加を図った。	A	B	地島の観光客はあまり増加せず、運賃収益の増加は見込めないため、船員費の抑制や事務経費の削減により事業の改善を図る。観光担当部署と連携し、地島の観光案内や特産品PRなど引き続き行う。	離島航路を維持していること自体評価できる。 現状の2航路3隻体制から1航路2隻体制による航路運営へ移行する航路改善計画を平成31年2月に策定しましたが、今後も地域と連携して観光客誘致を継続するとともに、地域全体で航路を維持していくという意識の醸成に取り組んで行くことを期待します。	
福岡県宗像市離島航路確保維持協議会	宗像市	大島～神湊～地島	観光担当部署と連携し、島内を回る循環バスや食事処等の観光案内チラシやパンフレット等を設置し、利用者の増加を図った。	A	A	旅行会社のツアー等の観光客はやや減少し、個人や小グループの観光客が増加している。観光担当部署と連携し、観光客数の維持を図る。		

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成31年3月27日

九州運輸局

評価対象事業名: 確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・ 効果達 成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
福岡県新宮町離島 確保維持協議会	新宮町	相島～新宮	相島住民により毎年開催されている島おこしのイベントやおもてなし協会の事業等においてサポートを行い、利用客の増に務めた。 また、燃費改善については、運航に支障がないアイドリングの抑制等を継続実施することとした。	A	A	4月のしんぐう合入渠時にはマリンライナーを代船としてきたが、近年の観光客の増加のためしんぐうと同程度以上の輸送力を確保する必要が有るため、たいようを代船とすることを検討する。	離島航路を維持していること自体評価できる。 現在、猫の島として注目を浴びており、観光面のサポートを積極的に取り組み、併せて受入環境整備を行っており、地域と航路が一体となって航路改善に取り組んでいることは評価できる。 今後は、観光客増加に対応するための利便性向上の取組みに期待します。	
福岡県福岡市離島 航路確保維持協議会	福岡県福岡市	玄界島～博多	島民以外の利用者にも渡船の利用を促すため情報発信を行っていく。	A	C	島民以外の利用者にも、渡船の更なる利用を促すため、引き続きFacebook等を活用した情報発信により利用者の増加に努めていく。	離島航路を維持していること自体評価できる。 地域と連携して観光客誘致を継続するとともに、地域全体で航路を維持していくという意識の醸成に取り組んで行くことを期待します。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成31年3月27日

九州運輸局

評価対象事業名: 確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・ 効果達 成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
福岡県福岡市離島航路確保維持協議会	福岡県福岡市	小呂島～姪浜	島民以外の利用者にも渡船の利用を促すため情報発信を行っていく。	A	C	島民以外の利用者にも、渡船の更なる利用を促すため、引き続きFacebook等を活用した情報発信等により利用者の増加に努めている。	離島航路を維持していること自体評価できる。地域と連携して観光客誘致を継続するとともに、地域全体で航路を維持していくという意識の醸成に取り組んで行くことを期待します。	
福岡県糸島市離島航路確保維持協議会	糸島市	姫島～岐志	昨年に引き続き、糸島市航路改善計画に基づき、利用者の増進及び利便性向上に努めている。 また、市観光部門が作成した「ひめしマップ」を活用して島の魅力をアピールし、観光客等の増進に努めた。 エンジンメーカーからのアドバイス等を受け、エンジン出力等の調整を行い、消費燃料の削減に努めた。	A	C	今後も引き続き、島内整備など島民との協議を重ねて魅力ある島づくりに取り組む。「ひめしマップ」の船内への配架や団体利用客等への配布等を行い、福岡都市圏から1時間ほどで自然が満喫できる島の魅力をアピールし、観光客や団体利用客の再利用・新規利用誘致などで利用者の増進を図る。	離島航路を維持していること自体評価できる。また、福岡市都市圏に近いという地の利を活かし、関係部署と連携して観光客等の誘致に力を入れており評価できる。島内の受入環境整備に限らず、島民の利用促進の取組みにも期待します。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成31年3月27日

九州運輸局

評価対象事業名: 確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・ 効果達 成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
唐津市離島航路確保維持協議会	(有)郵正丸	馬渡島～呼子	本航路は、離島住民にとっては島外への通勤、通学、通院、生活物資の購入等日々の生活の安定の確保という観点から、確実に計画運航回数の達成を目標とし、併せて観光客などの利便性を確保した。	A	A	島内人口が減少している中、今後もイベント事業と連携して、観光客等の利用者増加を図る。 引き続き安定的な航路運営に努め、計画運航回数の実施、コスト削減を図る。	離島航路を維持していること自体評価できる。 今後も人口は減少傾向が予想される一方、当該航路は必要不可欠な住民の足であるため、島外からの観光客誘致に関係者と連携して取り組んでいただくことを期待します。	
唐津市離島航路確保維持協議会	(有)加唐島汽船	加唐島～呼子	本航路は、離島住民にとっては島外への通勤、通学、通院、生活物資の購入等日々の生活の安定の確保という観点から、確実に計画運航回数の達成を目標とし、併せて観光客などの利便性を確保した。	A	A	島内人口が減少していることから、島民利用の増加は望めないものの、各種イベント事業との連携により、観光客等の利用者の確保を図る。 引き続きコスト削減を図りつつ、計画運航回数の確保を図る。	離島航路を維持していること自体評価できる。 今後も人口は減少傾向が予想される一方、当該航路は必要不可欠な住民の足であるため、島外からの観光客誘致に関係者と連携して取り組んでいただくことを期待します。	

**地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)**

平成31年3月27日

九州運輸局

評価対象事業名：確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・ 効果達 成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
唐津市離島航路確保維持協議会	川口汽船㈱	小川島～呼子	本航路は、離島住民にとっては島外への通勤、通学、通院、生活物資の購入等日々の生活の安定の確保という観点から、確実に計画運航回数の達成を目標とし、併せて観光客などの利便性を確保した。	A	A	島内人口が減少している中、今後もイベント事業と連携して、観光客等の利用者増加を図り、計画運航回数の確保に努める。また、共通予備船の利用回数を増やすことで燃料消費量の削減を図るとともに、安定的な航路運営に努める。	離島航路を維持していること自体評価できる。今後も人口は減少傾向が予想される一方、当該航路は必要不可欠な住民の足であるため、島外からの観光客誘致に関係者と連携して取り組んでいただくことを期待します。	
唐津市離島航路確保維持協議会	唐津汽船㈱	神集島～湊	本航路は、離島住民にとっては島外への通勤、通学、通院、生活物資の購入等日々の生活の安定の確保という観点から、確実に計画運航回数の達成を目標とし、併せて観光客などの利便性を確保した。	A	A	島内人口が減少している中、今後もイベント事業と連携して、観光客等の利用者増加を図る。引き続き安定的な航路運営に努め、計画運航回数の実施、コスト削減を図る。	離島航路を維持していること自体評価できる。今後も人口は減少傾向が予想される一方、当該航路は必要不可欠な住民の足であるため、島外からの観光客誘致に関係者と連携して取り組んでいただくことを期待します。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成31年3月27日

九州運輸局

評価対象事業名: 確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・ 効果達 成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
長崎県離島航路対策協議会	九州郵船株	博多～比田勝	島内の情報を収集。旅客、車両の増加に努めた。	A	A	旅客、車両共、過疎化、水産業の不振等で多くの利用増は見込めないが、旅客グループ、定期トラックの利用増を引き続き働きかけていく。	離島航路を維持していること自体評価できる。 平成29年4月から国境離島運賃割引が実施され、旅客数が昨年度より増加していることは評価できる。 今後も島民の利用を促す取り組みを進めるとともに、具体的に貨物集荷をどのようにすれば、利用に繋がっていくのか検証して実施することを期待します。	
長崎県離島航路対策協議会	崎戸商船株	友住～佐世保	離島航路改善計画実施の為の情報収集に努め、実施時期の検討を行なった。又、費用の削減に努める。	A	B	長崎県離島航路対策協議会「友住～佐世保航路分科会」において策定された離島航路改善計画実現の為、自治体、造船所等と協議を行なっていく。	離島航路を維持していること自体評価できる。 平成31年6月を目途に、航路改善計画に沿って新船就航をすすめているところ。新船就航を契機として、今後も地域住民と一体となって、航路の利用促進に取り組んでいただくことを期待します。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成31年3月27日

九州運輸局

評価対象事業名：確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・ 効果達 成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
長崎県離島航路対策協議会	九州商船株	佐世保～上五島	他社の参入により「佐世保～上五島航路分科会」でまとめられた航路改善計画を反映させることはできていないが、安全運航のために日頃から船舶の点検等を行うなどして航路の確保維持に努めた。	A	A	競合していた他社航路が平成30年10月2日から運休し全区間が単独運航の状態に戻ったため、長崎県離島航路対策協議会「佐世保～上五島航路分科会」でまとめられた航路改善計画(ダイヤの変更・使用船の更新)を実現できるよう努めたい。	離島航路を維持していること自体評価できる。 新船が就航した事、平成30年6月に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が世界文化遺産に登録された事を活用し、情報発信やツアー造成などに取り組み、島外からの観光客誘致に関係者と連携して取り組んでいただくことを期待します。	
長崎県離島航路対策協議会	野母商船株	福江～博多	利用者へ船内でアンケート調査を実施しニーズに応えられるように努力している。 日頃から船舶等の点検・整備を確実に 行い、安心・安全な運航 サービスが維持されるように努めている。	A	A	①経費面では、博多～宇久港間の下り便において減速運航を継続して行うことで燃料費削減に努め、その他経費においても削減に努める。 ②収入面では、積極的な営業活動を行い増収に努める。	離島航路を維持していること自体評価できる。 平成30年6月に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が世界文化遺産登録された事や大都市を夜出港し朝離島に到着するため、他の航路とは違う特色を持っており、その特色も航路の魅力と捉え、情報発信に努めていただくことを期待します。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成31年3月27日

九州運輸局

評価対象事業名: 確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果			⑥事業の今後の改善点	地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・ 効果達 成状況		評価結果	
長崎県離島航路対策協議会	五島旅客船㈱	郷ノ首～福江	本年度は、使用船舶の老朽化及び高速船の機関故障により、船舶修繕費が多額となったが、日常メンテナンスを計画的に実施すると共に、ドック時に於いて検査工事等を造船所に全て任せることなく、船員自ら整備を行うことにより削減に努めた。 尚、当該機関故障により、修理期間が長期に亘った為、代船の備船料が増加した。	A	B	地域公共交通活性化再生協議会並びに長崎県離島航路対策協議会に設置されている地域分科会等を通じて、本土～離島間及び島内交通機関との接続を密にして地元住民の足としてより良い運航形態を目指すことにより、公共交通機関としてのサービス維持すると共に、世界遺産登録となった「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」に関する取組を推進することにより、交流人口の増加に寄与したい。	離島航路を維持していること自体評価できる。 平成30年6月に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が世界文化遺産に登録された事を活用し、地域と連携しなら、航路の利用促進に取り組んでいただくことを期待します。	
長崎県離島航路対策協議会	佐世保市(宇久)	神浦～寺島～柳	過去の実績を鑑み目標値を現実的なものにしたうえで、運航率の安定を図った。	A	A	国境離島島民割引による利用増や、風力発電やメガソーラー等寺島に関連する事業の進捗により、本航路の利用者数改善が見込まれる。	離島航路を維持していること自体評価できる。 当該航路は必要不可欠な住民の足であるため、地域で航路を維持していくという意識の醸成に取り組んで行くことを期待します。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成31年3月27日

九州運輸局

評価対象事業名: 確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・ 効果達 成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
長崎県離島航路対策協議会	津吉商船株	津吉～相浦～佐世保	・平戸南部地区の過疎化に伴う人口の自然減による輸送人員の減少を補うため、イギリスからの「将軍ツアー」と、平戸商工会議所主導による南部地区町おこしの一環として「南部地区活性化委員会」にも積極的に参加し観光誘致に努め、各種イベント等に関しても、当社も出来る限りPRを行い、平戸島外からの入込み客を増やすことにより運賃増収に努めた。	A	A	・事業者単独での航路維持は非常に困難であり、公的支援が必要である。 ・佐世保コンベンション協会に働きかけ佐世保地区へのPR化を図り、広域観光ルートの構築に取り組む。 ・イギリスからの「将軍ツアー」と、平戸商工会議所主導による「南部地区活性化委員会」にも積極的に参加し観光誘致に努め、各種イベントに関しても、出来る限りPRを行い、運賃の増収に努める。 ・船舶修繕費については、船員で整備修繕を行い、経費削減に努める。	離島航路を維持していること自体評価できる。 観光客以外にも、島民の利用促進策についても検証を行い、地域で航路を維持していくという意識の醸成に取り組んで行くことを期待します。	
長崎県離島航路対策協議会	西海沿岸商船株	佐世保～神浦	長崎市及び島民との協議を行い、観光客の受け入れ体制、ダイヤについて協議を行っている。	A	B	西海市及び長崎市(池島)と連携し航路利用客の増加に努める。	離島航路を維持していること自体評価できる。 今後も地域と連携して利用促進策を継続していただくことを期待します。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成31年3月27日
九州運輸局

評価対象事業名: 確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・ 効果達 成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
長崎県離島航路対 策協議会	平戸市	大島～平戸	燃料費の安価な購入のため毎月単価見積入札を実施した。離島住民割引を実施し、島民の利便確保、負担軽減を図った。	A	A	燃料単価は昨年度に比較して上昇しており、主機回転数の抑制や毎月の単価見積入札を継続し経費削減に努める。また、ドック等において、塗装、小修理等可能な限り船員で行い経費節減に努める。さらに、安定的な運航を図るため、船員の確保に努めていきたい。	離島航路を維持していること自体評価できる。船舶修繕費についても日頃から積極的に船員による船舶修繕に取り組んだことにより、昨年度よりも船舶修繕費削減出来ていることも評価できる。今後も継続して費用削減に取り組むことを期待します。	
長崎県離島航路対 策協議会	対馬市	仁位～長板浦	29年4月から始まった国境離島運賃割引の周知を行い、30年4月からは「障害者」まで対象を拡大させ、利用者促進を図った。また、経費においては、塗装、小修繕など可能な限り船員で行い、主燃料の入札を年2回から4回にするなどして経費削減に努めた。	A	A	住民利用だけでなく、島外観光客等の定期航路利用も増加していることから、不定期航路と併せて関係機関への周知を行い、運賃収入の増加に繋げていきたい。また、航路改善計画に基づき利用客が極めて少ない寄港地については、減便、廃止などについて引き続き検討し、燃料経費等の削減を目指すとともに、利用しやすい運航時間や利用内容の分析・把握に努め、効率的な運航方法を検討していきたい。	離島航路を維持していること自体評価できる。今後も地域住民と一体となって、航路の利用促進に取り組んでいただくことを期待します。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成31年3月27日
九州運輸局

評価対象事業名: 確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・ 効果達 成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
長崎県離島航路対 策協議会	長崎汽船株	長崎～伊王島～高島	①パック商品等の継続 ②H29年6月19日より新船「鷹巢」を就 航、船舶修繕費、燃料費等の削減に努 力している。 ③H30年4月2日より神ノ島を抜港して いる。	A	A	・事業者単独での航路維持は非常に困難で あり、公的支援が必要である。 ・平成29年6月19日より「鷹巢」(総トン数124ト ン)が就航し、船舶修繕費、燃料費の削減等 を目標に経営改善を目指します。	離島航路を維持していること自体評価でき る。 利用者の少ない神ノ浦港の抜港など、経費 削減を進めていることは評価できる。 また、釣客や海水浴客等に対する積極的な 情報発信を継続して行うことも期待します。	
長崎県離島航路対 策協議会	鷹島汽船有	阿翁～御厨	平成28年4月6日に全区間に離島住民 運賃割引を導入した。少子高齢化の進 行及び雇用の場が無く、若年者の島外 流失により、利用者は年々減少傾向で 歯止めがかからない状況であるが、交 流人口の拡大、観光客の誘致のため に「まつら党交流公社」及び「まつら 観光物産協会」と協力して、青島への 体験型修学旅行生の受け入れに努め ている。	A	B	平成27年度に松浦市地域公共交通活性化 協議会「殿ノ浦～今福航路対策文化会」にお いて、阿翁～御厨航路に飛島を寄港地として 追加する「航路改善計画」を作成した。それ に伴い寄港地である飛島に週1回(基本水曜 日)本航路の「フェリーたかしま2」を運航し て、屎尿運搬車・ゴミ収集車・プロパンガス運 搬車・燃料運搬のタンクローリー車等の車両 輸送を行っている。	離島航路を維持していること自体評価でき る。 今後も地域と連携して観光客誘致を継続す るとともに、地域全体で航路を維持していく という意識の醸成に取り組んで行くことを期待 します。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成31年3月27日

九州運輸局

評価対象事業名: 確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・ 効果達 成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
長崎県離島航路対 策協議会	鷹島汽船㈱	殿ノ浦～今福	少子高齢化の進行及び雇用の場が無く、若年者の島外流出により、利用者は年々減少傾向で歯止めがかからない状況であるが、交流人口の拡大、観光客の誘致のために「まつら党交流公社」及び「まつら観光物産協会」と協力して、鷹島への体験型修学旅行生の受入れに努めておりますが、団体利用者は皆無であるので、寄港地である飛島へ島外からの釣り客利用者の増加に努めております。	A	A	平成26年度の「航路改善計画」に基づき、今後は長期的視点にたった持続的な経営効率化と関係者間の連携強化を図る事に行っている。	離島航路を維持していること自体評価できる。 今後も地域と連携して観光客誘致を継続するとともに、地域全体で航路を維持していくという意識の醸成に取り組んで行くことを期待します。	
長崎県離島航路対 策協議会	壱岐市	大島～郷ノ浦	観光客の拡大、校外学習によるフェリーの利用等、収入の維持、確保を図った。 経費については、消耗品の節減、燃料油費の毎月単価入札の実施、修繕費については、中間検査における指名競争入札の実施、船員による日頃からの船舶保守点検を徹底し、経費節減に努めた。	A	B	人口減少・少子高齢化等により、運航収益の減少が危惧されるが、引き続き島外からの観光客・教育旅行等による乗客及び交流人口拡大を図り収入の増加・確保に努める。 また、経費についても、燃料油費について毎月単価入札を実施、中間検査の指名競争入札実施、消耗品費、修繕費等の経費節減を図り、本航路の実情にあった経営改善を継続的に図っていく。	離島航路を維持していること自体評価できる。 船舶修繕費についても日頃から積極的に船員による船舶修繕に取り組んだことにより、計画よりも船舶修繕費削減出来ていることも評価できる。 今後も地域と連携して利用促進策を継続していただくことを期待します。	

**地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)**

平成31年3月27日

九州運輸局

評価対象事業名：確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・ 効果達 成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
長崎県離島航路対策協議会	黒島旅客船(南)	黒島～高島～相浦	黒島地区の世界文化遺産登録を受け、生活航路と観光の共存を踏まえた運営を行う。	A	A	平成30年6月、黒島地区の世界文化遺産登録に伴い、行政や観光業界と連携を密に取りながら収入の増加に努める。また船員確保や事務作業の効率化を図り、安定した航路運営に努める。	離島航路を維持していること自体評価できる。 新船が就航した事、平成30年6月に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が世界文化遺産に登録された事を活用し、情報発信やツアー造成などに取り組み、島外からの観光客誘致に関係者と連携して取り組んでいただくことを期待します。	
長崎県離島航路対策協議会	五島市(奈留)	奈留島～前島	デマンド運航の定着及び利便性の向上を図り、離島航路の維持存続に努める。	A	B	デマンド運航によって利便性の確保を図り、離島航路の維持存続に努める。また、乗客の集約と利便性の確保を目標としており、両者の兼ね合いをとりながら、経費の削減を図りたい。	離島航路を維持していること自体評価できる。 地域と連携して観光客誘致を継続するとともに、地域全体で航路を維持していくという意識の醸成に取り組んで行くことを期待します。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成31年3月27日
九州運輸局

評価対象事業名: 確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・ 効果達 成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
長崎県離島航路対 策協議会	㈲木口汽船	久賀～福江～杵島	前回の事業評価結果を参考として更に改善できる点はないか検討した。費用面では、消耗品の見積りを数社取り、検討した上で購入した。修繕費に関しては点検を十分に行い細かい箇所の修理や塗装等は船員で行う事とした。収入面では、観光客誘致についてパンフレット送付やホームページで予約状況の案内、雑誌の無料掲載の取材に積極的に参加し、これまで以上にPRに努めた。	A	A	久賀島、杵島とも国境離島新法の運賃低廉化の効果は大きく、旅客収入増への貢献が期待される。また、平成30年6月に久賀島が「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」に登録され、観光客の利用が少しずつ増えている。今後も観光面でのPRを進め、行政や観光協会等による航路情報や島情報の発信を引き続きお願いしていきたい。	離島航路を維持していること自体評価できる。 久賀島が平成30年6月に世界文化遺産に登録された事を活用し、行政等と連携した効果的な情報発信などに取り組み、島外からの観光客誘致に繋げていただくことを期待します。 また、今後も島民の利用促進策を継続していただくことを期待します。	
長崎県離島航路対 策協議会	㈲黄島海運	黄島～福江	燃料費の安価購入のため毎月単価購入契約を実施した。経費の削減に努め安定的な航路運営を図った。	A	A	船舶修繕費について、ドック、小修理等など、可能な限り船員でおこない経費削減に努める。離島住民及び利用者の要望を常に聞きながら、利用者の目線で事業運営に努めていきたい。	離島航路を維持していること自体評価できる。 観光客等が増え、運航収益が計画よりも増加していることは評価できる。 航路の利用促進に取り組んで行くことを期待します。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成31年3月27日

九州運輸局

評価対象事業名：確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・ 効果達 成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
長崎県離島航路対策協議会	五島市(富江)	富江～黒島	デマンド運航による利便性の向上を図り、離島航路の維持存続に努める。	A	A	・海上タクシーによるデマンド運航を継続していく ・黒島島民が1世帯1名となり、大幅な利用増加が見込めない。	離島航路を維持していること自体評価できる。 当該航路は必要不可欠な住民の足であるため、地域で航路を維持していくという意識の醸成に取り組んで行くことを期待します。	
長崎県離島航路対策協議会	竹山運輸(有)	度島～平戸	高島の浄化槽清掃・飛島工事備船に努めました	A	A	人員不足の改善に努める 合い見積もりに努め経費削減に努める	離島航路を維持していること自体評価できる。 運航収益が計画よりも増加していることは評価できる。 今後も地域と連携して利用促進策を継続していただくことを期待します。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成31年3月27日

九州運輸局

評価対象事業名：確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・ 効果達 成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
長崎県離島航路対策協議会	小値賀町	笛吹～大島・野崎	・町の観光窓口である「おちかアイランドツーリズム協会」と連絡を密にし「長崎と天草地方の潜伏キリタン関連遺産」として世界遺産登録された野崎島を訪れる観光客の利用や修学旅行生や民泊利用者など、町営船の利用促進への対策を行った。	A	A	離島航路構造改革補助事業で立ち上げた航路対策協議会分科会を必要に応じ開催し効果的な運航や増収策など、意見を聞きながら取り組んでいく。	離島航路を維持していること自体評価できる。 野崎島が平成30年6月に世界文化遺産に登録された事を活用し、行政等と連携した効果的な情報発信や運航計画の変更などに取り組み、島外からの観光客誘致に取り組んでいただくことを期待します。	
長崎県離島航路対策協議会	小値賀町	柳～納島	島の特産品である落花生収穫体験の研修等、団体客の利用	A	A	今後も、観光事業と連携した取り組みを行い、利用客増加を図る。	離島航路を維持していること自体評価できる。 地域と連携して観光客誘致を継続するとともに、地域全体で航路を維持していくという意識の醸成に取り組んで行くことを期待します。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成31年3月27日

九州運輸局

評価対象事業名：確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・ 効果達 成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
長崎県離島航路対 策協議会	嵯峨島旅客船(有)	嵯峨島～貝津	費用を抑えるためできるだけできることは船員で行い、比較ができる費用は見積もり比較をし依頼している。	A	B	島の人口は減少傾向だが「潜伏キリシタン関連遺産登録」で観光客が増加傾向である。島にも木造教会があり、観光客も訪れるため今後もPRしていきたい。	離島航路を維持していること自体評価できる。 今後も人口は減少傾向が予想される一方、当該航路は必要不可欠な住民の足であるため、島情報の発信等の観光利用促進に取り組んで行くことを期待します。	
天草～長崎航路対 策協議会	苓北観光汽船(株)	富岡～茂木	なし(初年度)	A	B	・茂木港発の1便当たり乗客数は微増しており、天草地域の観光資源を生かした航路利用促進は今後も継続していく。 ・富岡港発の乗客数の落ち込みが大きいことから、島民向けに長崎のイベントや観光施設の情報発信を強化する。 ・目標値については、これまでの実績と乖離しすぎず、実現性のある値を設定する。	離島航路を維持していること自体評価できる。 ただ、利用者増の見込みが大きすぎたことについては改善を行い、適切な目標設定に努めて下さい。 今後の天草地域の観光資源を生かした航路利用及び島民の航路利用促進に取り組んで行くことを期待します。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成31年3月27日

九州運輸局

評価対象事業名: 確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果			⑥事業の今後の改善点	地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・ 効果達 成状況		評価結果	
姫島～国見航路運 営協議会	姫島村	姫島～国見	<p>○前回評価結果 「行政等と連携した効果的な情報発信 や利用促進などの取組や、陸上交通と 連携した面的な対応など、住民や旅行 者の利便性向上に取り組むことを期待 する」 一県や関連市町村、交通事業者等で 策定した大分県北部圏地域公共交通 網形成計画や再編実施計画では、本 土の最寄り駅の1つである宇佐駅から 伊美港への接続について、ダイヤの調 整等改善を図っている。また、夏季に はバスとフェリー乗り継ぎ割引乗車券 が販売されたほか、島内では季節に合 わせて姫島港から海水浴場やアサギ マダラの群生地へのシャトルバスを運 行し、観光客の利便性向上を図った。 協議会委員には、村の企画振興課長 や商工会会長、区長会会長を任命し ており、協力して観光振興や利用促進等 の取組を行っている。</p>	A	A	<p>○日本ジオパークに認定されたことを契機に 関係機関とさらに連携し、アンテナショップな どの観光イベントの活用を充実強化すること により、県内外からの観光客誘致を進めて交 流人口の増大を図る。 ○船舶については常時点検を行い、大規模 な修繕の発生を回避する。</p>	<p>離島航路を維持していること自体評価でき る。 本土の最寄り駅の1つである宇佐駅から伊 美港への接続の改善を図ったり、バスとフェ リーの乗り継ぎ割引乗車券の販売など、観 光振興や利用促進の取組を行っている ことは評価できる。 今後は行政等と連携した効果的な情報発信 に取り組むことを期待します。</p>	
大島～佐伯航路運 営協議会	佐伯市	大島～佐伯	<p>○前回評価結果 「今後も人口は減少傾向が予想される 一方、当該航路は必要不可欠な住民 の足であるため、行政や事業者、住民 が一体となって協議会として、具体的 な利用促進策を計画・実行するとともに、 地域で航路を維持していくという意識の 醸成に取り組んでいくことを期待する」 一協議会委員には、市の地域振興部 長や佐伯市あまべ商工会会長、大島 地区自治会長を任命しており、協力し て移住や利用促進等の取組を行っている。</p>	A	A	<p>○関係機関と連携して情報発信を行い、需 要を喚起するとともに、活性化方策として島 内イベントの開催等を検討する。 ○船舶の日常点検を徹底し、突発的な大規 模修繕の発生を回避し修繕費の削減を図 る。</p>	<p>離島航路を維持していること自体評価でき る。 今後も人口は減少傾向が予想される一方、 当該航路は必要不可欠な住民の足であるた め、島情報の発信や島内イベント等の観光 利用促進に取り組んでいくことを期待しま す。</p>	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成31年3月27日

九州運輸局

評価対象事業名: 確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・ 効果達 成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
蒲江～深島航路運 営協議会	蒲江交通(有)	蒲江～深島	<p>○前回評価結果 「今後も行政や地域住民と連携した効果的な情報発信を定期的に行うなど旅行者の利用促進を引き続き取り組むことを期待する」 →島民によるマリンアクティビティやゲストハウス等の運営、HPやSNSによる情報発信等を市や関連機関と連携して行っており、島の活性化や航路の利用促進につながっている。 協議会委員には、市の地域振興部長や佐伯市あまべ商工会理事、屋形島・深島区長を任命しており、協力して利用促進等の取組を行っている。</p>	A	A	<p>○島民利用の増加は望めないことから、観光関係部署と連携を図りながらホームページ等で情報発信を行い、来訪客の増加を図る。 ○更なる経費節減に努め、欠損額の抑制を図る。</p>	<p>離島航路を維持していること自体評価できる。 今後も経費節減や航路の利用促進等に取り組むことを期待します。</p>	
津久見～保戸島航 路運営協議会	(有)やま丸	津久見～保戸島	<p>○前回評価結果 「今後も人口は減少傾向が予想される一方、当該航路は必要不可欠な住民の足であるため、地域で航路を維持していくという意識の醸成に取り組んでいくことを期待する」 →地域おこし団体が開設したHPや市観光協会のHP、Facebook等による情報発信、着地型のイベント等による地域と連携した誘客促進を図っている。 協議会委員には、市の経営政策課長や津久見市商工会議所会頭、保戸島区長会会長を任命しており、協力して移住や利用促進等の取組を行っている。</p>	A	A	<p>○観光部署と連携して観光ツアーの取組を強化し、来訪者の利用拡大を図る。 ○船舶の日常点検を徹底し、突発的な大規模修繕の発生を回避し修繕費の削減を図る。 ○細かな節減に努め経費の圧縮を図る。</p>	<p>離島航路を維持していること自体評価できる。 ホームページやSNSを活用した情報発信、地域と連携した誘客促進の取り組みを積極的に行っていることは評価できる。 今後も地域と連携して観光客誘致を継続するとともに、地域全体で航路を維持していくという意識の醸成に取り組んで行くことを期待します。</p>	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成31年3月27日
九州運輸局

評価対象事業名: 確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果			地方運輸局等における 二次評価結果	備考	
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・ 効果達 成状況	⑥事業の今後の改善点		評価結果
延岡市離島航路確保維持改善協議会	日豊汽船株	島浦～浦城	観光協会や地元団体と連携して事業に取り組むなど交流人口の増加に向けた取組を図るとともに、住民や観光客等の利便性向上を図るため老朽化した本社事務所の建替えについて次年度計画に反映した。	A	B	<p>島内の高齢化が進み人口減少が進んでおり、島民の利用増加が難しい状況にある中、本社事務所建替えによる待合スペース等の利用環境の整備や航路のPRのほか、航路と接続する路線バスとの連携等による利用促進を図っていく。また、住民や関係団体等が連携し、交流人口の拡大等に取り組む、島外からの利用客増加を目指していく必要がある。このため、島の若者等で構成される既存の任意団体の取組等とも連携し、漁業体験や島ごはんといった食など、島の魅力を活かした観光誘客に取り組んでいく。</p> <p>また、航路維持のためには、船員等の確保が必要不可欠であることから、引き続き、職場体験等を実施し、船員という職業への認知度の向上に努める。</p>	<p>離島航路を維持していること自体評価できる。公共事業減少に伴い運航収入が減少しているが、公共事業だけに依存しない航路経営を目指し、利用促進策を具体的に計画し、行政や事業者、住民と一体となって実施することを期待します。</p> <p>また、自己評価の「今後の改善点」である「島の若者等で構成される既存の任意団体の取組等とも連携し、漁業体験や島ごはんといった食など、島の魅力を活かした観光誘客」は是非とも実施していただきたいと考えます。</p>	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成31年3月27日

九州運輸局

評価対象事業名: 確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・ 効果達 成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
串木野・川内～甑島 航路対策協議会	甑島商船株式会社 串木野・川内～甑島 航路	串木野・川内～甑島 航路の運航	<p>・甑島への入込観光客の誘客促進を図るため、旅行代理店向けの旅行商品割引や高速船周遊割引を実施し、甑島への入込観光客の誘客促進等を図ることで、輸送量の維持、確保に努めた。</p> <p>・平成28年度まで本事業により実施してきた離島住民割引は、平成29年4月から有人国境離島法による運賃低廉化事業に移行され、引き続き、住民等の負担を軽減することで、利用促進を図った。</p>	A	B	<p>・甑島の人口が減少傾向にあり、島民の航路利用減少が推測されることから、引き続き、特定有人国境離島法の滞在型観光促進事業なども活用しながら、航路事業者や薩摩川内市と連携し、島外からの交流人口の増加を図ることで、輸送量の維持に努める。</p> <p>・離島住民にとって必要不可欠な交通手段である航路の維持・確保のため、今後とも経費削減に努め、安定的な航路運営に努める。</p>	<p>離島航路を維持していること自体評価できる。 旅行代理店向けの旅行商品割引や高速船周遊割引等の甑島への入込観光客の誘客促進の取組みを積極的に行っていることは評価できる 今度も観光客の利用促進を継続することを期待します。</p>	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成31年3月27日

九州運輸局

評価対象事業名: 確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果			地方運輸局等における 二次評価結果	備考	
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・ 効果達 成状況	⑥事業の今後の改善点		評価結果
鹿児島～三島～枕崎航路対策協議会	三島村 鹿児島～三島航路	鹿児島～三島航路の運航 ※平成28年10月より、枕崎航路を休止し、鹿児島～三島間を週3便(1泊2日運航)から週4便(1泊2日運航2回、日帰り運航2回)へ増便	<p>・増便等による利便性の向上により、地域間交流や各種イベント等、村の施策と連携した利用促進に取り込むことで、前年に大幅に伸びた輸送量の維持・確保を図った。</p> <p>・平成28年度まで本事業により実施してきた離島住民割引は、平成29年4月から有人国境離島法による運賃低廉化事業に移行され、引き続き、住民等の負担を軽減することで、利用促進を図った。</p>	A	B	<p>・今後も、輸送量確保のため、地域間交流や各種イベント等、村の施策と連携した、利用促進に努める。</p> <p>・本航路は、住民の利便性向上のため、平成28年10月より、便数利便性改善支援制度を活用して、週3便から週4便へ増便したところであり、今後、運航日程・発着時刻に関する住民の要望や利用動向を踏まえ、さらなる航路の利用促進に努める。</p> <p>・離島住民にとって必要不可欠な交通手段である航路の維持・確保のため、今後とも経費削減に努め、安定的な航路運営に努める。</p>	<p>離島航路を維持していること自体評価できるが、公共事業減少に伴い運航収入が減少しているが、公共事業だけに依存しない航路経営を目指し、利用促進策を具体的に計画し、行政や事業者と連携した効果的な情報発信やツアー造成などに取り組み、島外からの観光客誘致に取り組んでいただくことを期待します。</p>	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成31年3月27日

九州運輸局

評価対象事業名: 確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・ 効果達 成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
鹿児島～十島～名瀬航路対策協議会	十島村	鹿児島～十島～名瀬	<p>・十島村において、定住対策関連事業(交流人口の増加対策や地元産業の育成対策等)に取り組むことにより、本航路における輸送量の確保及び航路収支の維持を図った。</p> <p>・平成28年度まで本事業により実施してきた離島住民割引は、平成29年4月から有人国境離島法による運賃低廉化事業に移行され、引き続き、住民等の負担を軽減することで、利用促進を図った。</p>	A	A	<p>・村が実施する定住促進対策関連事業等(交流人口の増加対策や地元産業の育成対策等)の施策と連携し、利用促進に努める。</p> <p>・新船就航に合わせ運航ダイヤの見直しを行っており、今後もこれに基づき航海時間の短縮による旅客等の利便性及び定時性の向上に努める。</p> <p>・離島住民にとって必要不可欠な交通手段である航路の維持・確保のため、今後とも経費削減及び安定的な航路運営に努める。</p>	<p>離島航路を維持していること自体評価できる。</p> <p>定住対策関連事業や新船就航に合わせて行った運航ダイヤの見直しなどの住民に対する利用促進を行っていることは評価できる。</p> <p>今後も島内外の航路利用促進の取り組みに期待します。</p>	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成31年3月27日

九州運輸局

評価対象事業名: 確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果			地方運輸局等における 二次評価結果	備考	
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・ 効果達 成状況	⑥事業の今後の改善点		評価結果
鹿児島～喜界～知名航路対策協議会	奄美海運(株)	鹿児島～喜界～知名	<ul style="list-style-type: none"> 奄美群島航路運賃軽減事業及び奄美群島交流需要喚起対策特別事業の運賃割引制度を活用した利用促進と地域のイベントや要望に応じた運航体制の確保により増収が図られた。 燃料価格の上昇により燃料油価格変動調整金を適用し、収支改善に努めた。 運航の安全を確保しながら随時見直しや節減を行い航路収支の改善に努めた。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 航路の状況は、離島の少子高齢化と過疎化により人口減少が進み輸送需要も減少していくことが推測される。今後も奄美群島振興交付金による運賃割引制度を有効に活用し地域住民や島外利用者の利用促進に努め、また、奄美地域の国立公園化と世界自然遺産登録に向けた取組みにより、航路との連携を図り関係機関と一体となって増収に努める。 燃料価格の上昇に対応するため燃料油価格変動調整金を適切に収受し、収支改善に努める。 離島の公共事業や地域で生産される農水産物等の輸送、地域の要望やイベントと連携した運航体制を確保し、関係市町村と一体となって増収に努める。 離島住民にとって必要不可欠な交通手段である航路の維持・改善のため、今後とも経費削減に努め、安定的な航路運営に努める。 	<p>離島航路を維持していること自体評価できる。</p> <p>奄美群島航路運賃軽減事業及び奄美群島交流需要喚起対策特別事業の運賃割引制度を活用した利用促進や地域の要望に応じた運航体制の確保等により、収益が増加したことは評価できる。</p> <p>また、奄美群島は世界自然遺産登録が見込まれていることから、行政等と連携した効果的な情報発信に取り組み、島外からの交流人口拡大に繋げていただくことを期待します。</p>	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成31年3月27日

九州運輸局

評価対象事業名: 確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果			⑥事業の今後の改善点	地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・ 効果達 成状況		評価結果	
宮之浦～口永良部・ 島間航路対策協議会	屋久島町	宮之浦～口永良部～ 島間	<ul style="list-style-type: none"> ・口永良部島での火山災害からの復興はほぼ噴火前の状態に戻りつつあるが、火山警戒レベル3が継続するなかで、島民にとって必要不可欠な生活航路としての安定的な航路運営に努めた。 ・平成28年度まで本事業により実施してきた離島住民割引は、平成29年4月から有人国境離島法による運賃低廉化事業に移行され、引き続き、住民等の負担を軽減することで、利用促進を図った。 ・県旅客船協会が旅行エージェントを対象に主催した「奄美・沖縄－屋久島航路」視察に併せて、本航路の紹介を行うなど、交流人口の拡大に向けた航路のPRを実施した。 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・使用船舶の老朽化や若者の島外転出や高齢化による島民人口の減少等で輸送量の確保が難しい状況であるが、口永良部島の公共工事等による輸送量の増加も見込んでおり、これに加え、関係機関との連携のもと、交流人口の増加に努める。 ・離島住民にとって必要不可欠な交通手段である航路の維持・確保のため、今後とも経費削減に努め、安定的な航路運営に努める。 	離島航路を維持していること自体評価できる。 国境離島運賃割引の活用や交流人口の拡大に向けた航路のPR等の利用促進を実施していることは評価できる。 今後も人口は減少傾向が予想される一方、当該航路は必要不可欠な住民の足であるため、地域で航路を維持していくという意識の醸成に取り組んで行くことを期待します。	
与路～古仁屋航路 対策協議会	瀬戸内町 与路～古仁屋航路	与路～古仁屋航路	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント開催など、地域住民の要望に応えるとともに、必要に応じて運航ダイヤの見直しを行うなど、利用者と航路運営の課題を共有しながら、輸送サービスの向上に努めた。 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・目標年間輸送量を確実に達成できるよう、与路島、請島でのイベント開催や農業振興等による取扱い貨物の増など、町の施策と連携した需要喚起策に努める。 ・離島住民にとって必要不可欠な交通手段である航路の維持・確保のため、今後とも経費削減に努め、安定的な航路運営に努める。 	離島航路を維持していること自体評価できる。 平成30年4月からの精神障がい者割引制度の導入や地域の要望に応じた運航体制の確保等の利用促進を実施していることは評価できる。 今後も人口は減少傾向が予想される一方、当該航路は必要不可欠な住民の足であるため、地域で航路を維持していくという意識の醸成に取り組んで行くことを期待します。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成31年3月27日

九州運輸局

評価対象事業名: 確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・ 効果達 成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
瀬相～古仁屋～生 間航路対策協議会	瀬戸内町	瀬相～古仁屋～生間	<p>・可動橋衝突事故の影響により、自動車等の輸送ができない代船による運航が長期化していたが、平成30年4月6日より新船での運航を再開し、現在は定期的かつ安全な運航を行っている。</p> <p>・平成29年4月より実施している加計呂麻島民を対象とした離島住民割引を引き続き実施し、島民の利便性確保、負担軽減を図った。</p>	B	B	<p>・加計呂麻島住民を対象とした離島住民割引を継続して実施し、島民の利便性確保、負担軽減に努める。</p> <p>・離島住民にとって必要不可欠な交通手段である航路の維持・確保のため、今後とも経費削減に努めるとともに、安定的な航路運営に努める。</p>	<p>離島航路を維持していること自体評価できる。</p> <p>奄美群島は世界自然遺産登録が見込まれていることから、行政等と連携した効果的な情報発信に取り組みに期待します。</p> <p>引き続き、安定的な運航ができるように、安全運航に努めてください。</p>	
天草～長島航路対 策協議会	天長フェリー株式会 社	天草～長島	<p>・平成30年3月に策定した「航路改善計画」を踏まえ、長島町や天草市など関係自治体との連携を図り、特に長島町など行政が実施する各種イベントと連携し、島外からの交流人口の利用促進を図ることで、目標の輸送量確保及び航路利用の促進に努めた。</p> <p>・長島町が獅子島住民の利用促進の一環として実施している自動車運賃を一部助成する制度(平成22年7月～)を活用し、自動車輸送量の確保に努めた。</p>	A	B	<p>・獅子島の人口が減少傾向にあり、島民の利用は漸次減少しているところであるため、長島町や天草市など関係自治体との連携を図り、地域間交流事業など島外からの交流人口の利用促進を図り、輸送量の維持に努める。</p> <p>・平成30年3月に策定した「航路改善計画」に基づき、引き続き、運航サービスの向上や利用者ニーズに対応した航路運営に努める。</p> <p>・平成30年3月に策定した「航路改善計画」に基づく運航形態の見直しや代替船(省エネ効率化船)の導入による経費削減に向け、具体的な検討を行う。</p> <p>・離島住民にとって必要不可欠な交通手段である航路の維持・確保のため、今後とも経費削減に努め、安定的な航路運営に努める。</p>	<p>離島航路を維持していること自体評価できる。</p> <p>地方自治体と連携した本航路の利用促進策により自動車輸送量増となり運航収益が増加していることは評価できる。</p> <p>今後、平成30年3月に策定した航路改善計画に沿った航路改善が図られることを期待します。</p>	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成31年3月27日

九州運輸局

評価対象事業名: 確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果			⑥事業の今後の改善点	地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・ 効果達 成状況		評価結果	
山口県生活交通確保維持改善協議会	下関市	竹崎～六連島航路	平成28年度に起点港及び運航時刻を変更し、島からの乗客の増加や、船員手当や宿舎費の削減等を行った。引き続き船舶の小型化(49トン→19トン)により燃料費、検査費用、修繕費等の削減に努める。	A	B	航路の利便性の向上及び収支改善のため、住民要望を受けて、平成30年の年末から平成31年の年始の時刻変更を実施した。 引き続き、利便性の向上及び収支の改善を図る。 新船就航に向け、竹崎及び六連島で就航式を実施する予定で、新船就航を周知して渡船利用者増の取組みを行う。(現時点では、六連島の情報発信として山口新聞に六連島の釣り情報を掲載) 船舶の小型化により燃料費、検査費用、修繕費等の削減に努め、安全運航を最優先にして安定的な航路運営を行う。	離島航路を維持していること自体評価できる。 平成31年4月を目途に、航路改善計画に沿って新船就航をすすめているところ。新船就航を契機として、地域住民と一体となって、島の魅力の情報発信に努めいただくことを期待します。	
山口県生活交通確保維持改善協議会	下関市	蓋井島～吉見航路	テレビ等のマスコミの取材に積極的に協力し、観光客の誘致等に努めている。 7年に一度の山ノ神神事もあり、自治会や島民が中心となり島おこしを行っている。	A	B	島の情報発信の取組みとして現時点では、山口新聞に蓋井島の釣り情報を掲載している。 経費削減として燃料費、修繕費等の削減に努め、安全に配慮しながら安定的な航路運営を行う。	離島航路を維持していること自体評価できる。 マスコミを活用した島の情報発信の取組みを積極的に行っていることは評価できる。 今後も、釣り情報など島の魅力の情報発信等による航路利用促進の取組みに期待します。	